教科・領域等　〔特別支援教育〕

（４）　インクルーシブな教育

☞こんな実践

通常の学級で，授業や活動への参加や取組に困難な子供はいませんか。その子の困難さの背景にはどのようなことが考えられるか予想し，それらに対する手立てを整理して，個別の支援とともに学級全体への有効な支援を追究している実践です。

実践学校　Ｅ小学校
実践学年　全学年（対象学年２学年）
実践時期　４月から

○　困難の背景を予測

Ｅ小学校では，授業や活動への参加や取組が難しい児童の困難さの背景にあるものとして、大きく次の２つが考えられるのではないかと予想を立てました。

Ａ：学習や活動に取り組むが課題を解決することが難しい

Ｂ：学習や活動への参加が難しい

図１　対象児の個別の支援計画

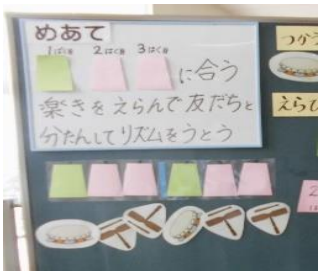
○　予想を基に個別の支援内容を計画

この予想を基に対象児を見ると、この児童は、そもそも学習や活動への参加に困難を感じていることがわかりました。そこで，**図１**をもとに、授業でどのような支援ができるかについて考えました。

対象児の日常の姿から視覚情報が優位であることが分かってきました。そこで，担任と音楽専科の先生は，音楽の授業で，拍のまとまりやリズム，強弱などを意識して

とれるよう，色のついた紙コップを（赤，緑，緑）提示し，手元で扱えるようモデルも用意して，対象児が一人でできる状況づくりをしました。

○　個別の支援を学級全体への支援へ



さらに，対象児への支援が，どの子にとっても有効と考え，モデルを複数用意しました。また，グループ学習で，互いに確認し合えるようにブースを複数設けて取り組めるようにしました。

対象児を含め，拍のまとまりを捉え，いろいろな楽器を使ってリズムや強弱を確認し合い，共に学ぶ場がありました。

＜様子＞	＜支援＞	
①興味のある物があったり，音がすると見に行くが，確かめた後は，戻れることもある。また，教師の合図で学習に戻れることもある。	・必要なことに注目できるように，提示する。 ・席を離れたときは，見守り，様子を見て戻れるように合図で知らせる。 または，そっと声をかける。 ・戻れたことを褒める。	特Ｋ１
②楽器の扱いがおろそかになるようなことがあった時は，やり方を伝え，考えさせると正しくできる。	・正しいやり方を伝えたり，「それいいのかな？」等と声をかけ，本人に考えさせて，正しくできるように促す。	特Ｋ２
③その場にそぐわない言葉には，正しい言葉を返すことで言うことを止めることができる。	・正しい言葉を返し，その後は全体の流れを大事にして授業をする。	特Ｋ３
④本人のよい気づきを取り上げることで，意欲的に取り組むことができる。	・よい気づきがあれば，その場で褒め，場合によっては，全体にも紹介する。	特Ｋ４
⑤周りに影響がない行動は，見守ることで，意欲を持ち続けることができる。	・周りに影響がないものは，声をかけないこともある。	特Ｋ５
⑥落ち着かない気持ちを表したとき，その行動の奥にある本当の思いを察して，教師が言葉で代弁して共感すると，素直な気持ちになれることが多い。	・「○○したかったんだね。」「残念だったんだね。」など，気持ちに共感する。	特Ｋ６
⑦落ち着かなくなったときは，その場から離れて静かな場所に行くことでいつもの様子に戻ることができる。	・その場から離れて，静かなところで過ごし，気持ちを落ち着けるように授業する。落ち着いたところで，気持ちメーターで気持ちを確認する。	特Ｋ７
⑧落ち着いたときに，教師と話しながら，自分の行動を振り返ることができる。	・落ち着いた後，行動を振り返り，次に同じような状況になったときの対処の方法を確認する。 ・「その場を離れて落ち着けたことがよかったね。」と共に振り返る。 ・「同じようなことが起きたときに今日みたいにできるといいね。」と話し，よかったやり方を振り返るために書いておく。	特Ｋ８
⑨持ち物が揃っていると落ち着いて課題に取り組むことができる。	・授業の前に必要な物が揃っているか一緒に確認する。	Ｂ①
⑩自分の場所や，やり方の順番がわかると安心して学習にとりかかることができる。	・ペア学習の場所を決めておく。	Ｂ①
	・楽器を使う順番をはっきりさせる。	Ｂ②
⑪授業の流れがわかることで，安心して学習できる。	・授業の流れを大切にして，気持ちが学習に戻ってきたときに何をしているのかがわかるようにする。 ・授業の流れの提示・板書	Ｂ②
⑫文字の情報があると，注目して聞くことができる。	・めあてをホワイトボードに書き，目で見て聞けるようにする。	Ｂ②
⑬指示の後，間を置かずに活動に入ることで，スムーズに参加できる。	・切り替えの合図で活動へのスムーズな移行ができるようにする。テンポよく進める。	Ｂ②
⑭リズムなど目に見えないものもリズム譜などで見えるようにすることで，イメージをつかんで取り組むことができる。	・使う リズムと使う音がわかるように示し，具体的にイメージをもちやすくする。	Ａ③

ここがポイント！

日常の姿から児童の得意な学び方を捉えて支援をしました。音の強弱や拍のまとまりといった見えないものを視覚化することで，対象児が迷わず授業に参加でき，学級全体も同様の支援でねらいを達成することができました。さらに，グループ学習を仕組み，共に学べる状況づくりをしました。

まとめ

・困っている児童を窓口として，その児童の困難さの背景の予想，日常の姿から得意な学び方を捉えて支援することなどをチームで行うことが大切です。支援について一人で悩まず，アイディアも広がり，他学級でも応用できます。

・個別支援が学級全体でも有効かどうか，学級の実態に応じて取り入れる機会をもつとよいでしょう。支援が適切かどうか，取組の様子やねらいの達成の見とどけを基に振り返りをするとよいでしょう。

インクルーシブな教育については…　特別支援教育学習指導要領サポートブック